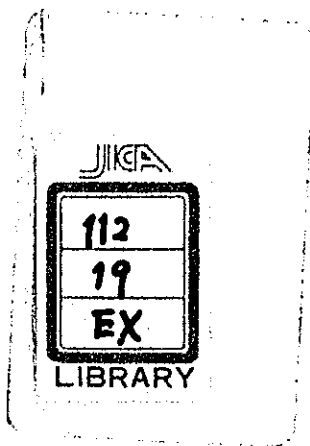


No. 24

昭和48年2月初版  
昭和49年9月改訂版

# 各国事情のしおり

—— ラオス編 ——



1974・9

国際協力事業団

国際協力事業団

受入 月日 '84. 4. -4	112
登録No. 02631	19
	EX

## は し が き

本小冊子は、技術協力のために海外に派遣される専門家のオリエンテーション用資料として同国に派遣されている事業団職員からの調査報告をもとに作成したものである。

本小冊子は、専門家の日常生活に密着した任国事情、特に衣食住、気候、教育、公共施設、対日感情、治安等を重点に作成した。

本小冊子の各項目については、今後も適時修正をおこなってゆくが、本小冊子が同国に赴任する専門家の何らかの参考になれば幸である。

昭和49年9月

JICA LIBRARY



1058613[9]

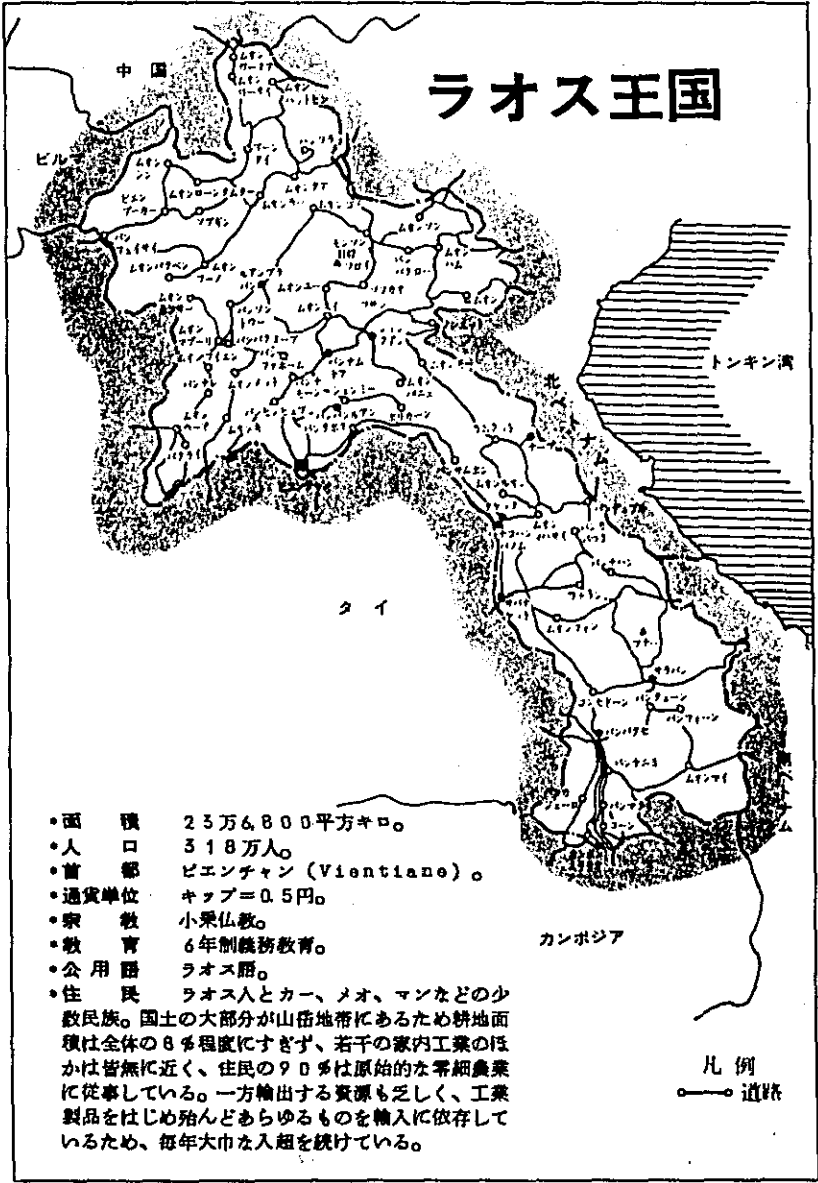
国際協力事業団

総務部長 松原 進

## 目 次

I 任国事情	1
1. 住宅（住宅事情、家賃、ホテル、什器備品、 電気・水道・電話）	2
2. 食品（食料事情、価格、外食）	8
3. 衣類および日用品（衣料事情、日用品、乳幼 児を同伴する場合の注意）	14
4. 使用人	16
5. 医療（医療事情、医薬品、疾病の種類、健康 管理上の注意事項）	17
6. 子弟の教育機関（教育制度、教育機関、授業 料、通学方法）	21
7. 娯楽設備（保養地、ゴルフ、ボーリング、映画、 通常の余暇の過ごし方、日本人クラブ、スポー ツクラブ等）	24
8. 電 力	26
9. 交通（交通事情、タクシー、ハイヤー、レン タカー、自動車購入、運転免許、ガソリン代）	27
10. 為替（相場、対日送金、滞在費等の受取方法）	31
11. 出入国管理（税関検査、外人登録、ビザの更 新手続等）	32
12. 便宜供与（種類、カウンターパート等、免税特権）	34
13. 通信・運輸（郵便事情、運送）	35
14. 言語（公用語等の普及度、現地語学習等）	37
15. 気 候	39

1 6. 治安（一般情勢、夜間外出、緊急時における連絡方法）	39
1 7. その他（対日感情、新聞・雑誌、風俗・習慣、理髪、クリーニング店、買物、今後赴任する専門家への忠告等）	41
Ⅱ 同国に対する我国の技術協力実績	45
Ⅲ 大使館等連絡先	48



# ラオス王国

- 面積 23万6,800平方キロ。
- 人口 318万人。
- 首都 ビエンチャン (Vientiane)。
- 通貨単位 キップ=0.5円。
- 宗教 小乗仏教。
- 教育 6年制義務教育。
- 公用語 ラオス語。
- 住民 ラオス人とカー、メオ、マンなどの少数民族。国土の大部分が山岳地帯にあるため耕地面積は全体の8%程度にすぎず、若干の家内工業のほかは皆無に近く、住民の90%は原始的な零細農業に従事している。一方輸出する資源も乏しく、工業製品をはじめ殆んどあらゆるものを輸入に依存しているため、毎年大巾な入超を続けている。

凡例  
—○— 道路

## I 任 国 事 情

1950年スファヌボン殿下（現プーマ首相の異母兄弟）が、パテトラオ（PATHET LAO “ラオスの国”という意味でラオス愛国戦線を意味する）抗戦政府を樹立した。その後2度にわたる連合政府の成立、崩壊を繰返し、そしてラオス政府とパテトラオの軍事対立から完全にラオスは戦乱の渦中に巻き込まれ、民族和解への道が固い氷に閉ざされてしまった。

しかし和平へのきざしがみえ始めたのは1970年になってからのことで、パテトラオ側から「和平5項目」の提案があつてからと言えよう。こうして1973年2月に和平協定即ちラオス全土にわたる休戦協定が実現した訳である。続いて同年9月に和平実施のための議定書の調印が行われ、翌年4月には3度目の連合政府（ラオス王国新政府）が樹立、停滞を続けるインドシナ情勢打開への新局面を開拓して行く上での先駆者となったわけである。

この後、総選挙を実施し、国内統合への道を踏んで行くわけだが、戦乱で疲弊した農村、荒廃した国土の再建、経済復興は、新生ラオスの取組むべき大きな命題である。現在止るところを知らないインフレは国民生活を虫ばみ、徐々に社会不安、政治不信をつのらせている。

これといった産業のないラオスに於いて外国援助だけがよりどころとなっている現状である。真の平和の実現のためには、外国軍隊の完全なる撤退や二つのイデオロギーの対立の段階的解消への努力が新政府の手によって重ねられてゆかなければならないで

あろう。

## 1. 住 宅

### (1) 住宅事情

現在、ヴィエンチャン在住の日本人数は200人前後である。このうち日本人専門家数は25～30名、協力隊員50名となっている。

このところ、Air America、USAID 関係の在留アメリカ人の数が激減している現状であるが、これが大きく住宅の需給バランスに影響していることは確かで、到るところに空家が目立ってきている。この現象は過去半年著しいようである。

借家条件として留意すべきことを、ざっと羅列してみると次のことが言える。まず何といても洪水に備えて浸水の心配がないこと（雨季の期間）であろう。ところが一般に地盤が高いところは、水の出が悪いのが悩みの種である。水圧の関係でシャワーの水が出ない時間帯がある。殆んどが水洗便所であるが、水圧が低い時は困る。その他としてほこりの少ない処を選ぶことである。このほこりは道が舗装されていないところが多いので、特に乾季は砂、ラテライトが混り合い、家屋に、車の中に浸入してくる。又治安、も心掛けることの一つである。欲を言えば買物のメッカ、朝市（タラーサオ）に近いことも条件にしたいところである。

#### ① エージェントの有無

ラオ人、ベトナム人の斡旋業者があるが、その数も限られているし、語学力の問題から知己を頼る方法が一般的で



ある。フランス語もしくはラオス語の出来る在留邦人をお願いすることが最善の方法であろう。

② 入手の難易度

上述の様に、空家の増加という傾向から難しくない。従って来寮後すぐに入居しないで、よく上記の条件をふまえた上でじっくり腰を据えてさがせば希望に沿った家が見つかる筈である。ホテルの場合又アパートの場合はその数も限られているので、全部一応はさっと見てみれば、凡その見当はつく。ビエンチャン市内といっても狭いので要は見歩くことである。

③ 賃借方法

賃借条件は以前程厳しいものではない。契約書ととりかわすケースは現在殆んどないと言ってよい。家賃もほぼ毎月払い条件とすべく家主と交渉できる。従って入居後、何等拘束義務もないので、いつでも移転可能である。

④ 契約上の注意

家具、調度品の類がついての契約かどうかを明確にすること、少なくとも応接セット、ベッド、食卓及び椅子は付けさせること。個人でこれらを購入してもよいが面倒なことと、購入によるメリット即ち家賃が安くなる幅が小さいので、この点を留意するとよい。クーラー、勉強机、本箱、下駄箱等は個人で購入することになる。

契約書は取りかわすことがないので、その他留意すべきことはない。但し、入居前、壁、床のよごれが目立つ際は、家主にペンキ塗りかえ及び補修等をやらせるとよい。その他は通常借家の際留意すべき事項（例えば破損箇所の相互

確認等)であろう。

⑤ 住宅地域の状況

敢えて住宅地域と呼ばれるところはなく、あちこちに住宅が点在しているのが現状である。高層ビルはビュンチャンにはなく、ビルと言えればせいぜい5階建止りである。その殆んどが独立家屋(平屋)である。高級住宅街というのものもある訳ではなく、従って外国人居住者が集合体を形成した住宅ブロック若しくは地域は見られない。

(ロ) 家賃…… 専門家が居住する家屋の平均的家賃

家族構成に応じたアパートもしくは1戸建の家屋を借りる訳であるが、家賃はベッド数によって決るものではなく、家の新旧の度合、大きさそして庭の景観、屋敷の広さによって決るので、一概に平均的家賃を割出すことは難しい。便宜上家族構成に応じた分類をすれば、

(1) 独身者…… 普通、アパート入居者が多い。

アパート 40～70ドル

70ドル払えば、クーラー付きの部屋もある。

(2) 家族 2人…… 普通、独立家屋に入居

100～180ドル

(3) 家族 4人…… 独立家屋に入居

150～200ドル

(ハ) ホテル

市内に専門家が宿泊できるホテルとしては、次のものが掲げられる。

○ ランサンホテル…… 国営

○ アポロホテル(エレベーター付)…… 民営

○ アヌーホテル…………… 民営

○ リドホテル…………… 民営

他に2～3のホテルがあるが、上記のものがよく利用されている。予約の際大使館経由で申し込めば、20%の割引きがある。料金も同一ホテルで、A、B、Cクラスの部屋がある。

① 短期滞在のホテル（食費込料金）

レストランのないホテルもあるので食費を割出すことは難しい。又通常、宿泊料の計算は食費を含まない。1泊10～15ドル程度。この基本料金にサービス料等約17%をみておくこと。外食をすればフランス料理で、夕食代だけで軽く10ドルは掛る。中華料理で夕食約6～7ドルはかかる。日本料理で約5ドルといったところである。従って食物の好みによって1日の食費は異なる。中華風料理、例えば“ミーナム”（ラーメンに似たもの）のたぐいは1ドルもかからない。

② 長期滞在のホテル又はマンション

長期滞在といっても交渉次第で、たとえ2～3週間の場合でも上記基本料金（10～15ドル/日）から30%程度の割引は可能である。月ぎめの場合は40%の割引がある。120～150ドル/月程度、エアコン付、但しセタバレスホテルは今はない。

③ ホテル滞在上の注意（盗難、チップ等）

盗難の心配があるので貴重品は必らずフロントに預けること、その際預り証を受取っておくこと。チップは不要である。但しチェックイン、チェックアウトの際の手荷物運

びのボーイに100キップ(1ドル=600キップ………  
…公定)程度のチップを渡すことは通例である。

(二) 什器、備品

① 携行を必用とする食器類等

何でもある。ただし品質は二流品なので、茶器、漆器等は良質のものを持参した方がよい。包丁は種類が豊富なのでヴィエンチャンで買い求めればよい。研磨代は50キップと安いので砥石をわざわざ持ってくることもない。まな板はすべて円形で材質が重いものばかりなので、肉たたき(ミンチにする時に使用)以外は使いにくい。スプーン、フォーク、箸、飯茶碗、鍋類、ボール、コップ類、徳利に至るまで何でも揃っているが高級品はない。但し子供用のものはあっても非常に高いので、おもちゃ、下着、箸等は持参した方がよい。

衣類関係では、下着、靴下、半袖シャツ等綿製品が手に入らない。書籍は、雑誌類は現地で購読できるが、その他の辞書、参考書、小説等は入手困難なので持参すること。娯楽設備が特にないところなので読書の占める割合は大きい。そろばん、大学ノート、手帳類は必携のこと。

ラジオ、クーラー、冷蔵庫は現地で購入でき、免税適用可能なので携行不要、扇風機は家に取り付けのファンがあるので購入不要、その他、傘、長靴、レインコートは売っている。靴はオーダーメイドで安くつくれる。子供用の靴はレディーメイドのものが豊富に出廻っている。スリッパはゴム草履で代替できるが、持参するにこしたことはない。

② 入居当初購入を必要とする物及其の価格

クレーン	US \$ 380 ~ 400.-	
		(免税価格)
トランス	US \$ 60.-	
電気スタンド	12,000 K	
電動ミシン	US \$ 50.-	
マットレス	シングル 6,000 K	
	ダブル 12,000 K	
ベッド	シングル 7,000 K	
	ダブル 12,000 K	
机	60,000 ~ 70,000 K	
冷蔵庫	US \$ 300.-	(免税価格)
ラジオ	100,000 K	
		(ソニー、フィリップス)
テープレコーダー	50,000 ~ 60,000 K	
		(ソニー、サンヨー、トーンバ、ヒタチ)
応接セット	70,000 ~ 80,000 K	

中古品もあるが、高いので新品購入をすすめる。若し帰国される専門家が事前にわかれば、譲り受けるようにすればよい。

(注) 電気・水道・電話

電圧は殆んどの地区が220V(ただし9月からは全域が220Vになる)であるが、安定してない。急に電圧が低くなったり、停電することがしばしばである。冷蔵庫の中の生鮮食料品が駄目になるケースが多々あるので買い溜めは禁物である。家庭用電気料金は38キップ/KWHで、1ヶ月約

10,000キップ内外。クーラー用電気料金は特別料金、即ち割引き料金が適用される。1ヶ月1台につき約10,000キップ、つけっ放して20,000～25,000キップ程度。50サイクルである。

水道は、地盤の高い処では水圧が低く水の出が悪いので、時間帯によってはシャワーも出来ないことがあるので入居前に十分な調査をしておくこと。料金は約100キップ/m<sup>3</sup>で、1ヶ月約7,000～10,000キップかかる。

電話は、ヴィエンチャン市内でほんの2,000回線しかない。今後電話設置の可能性は低い。現在、殆どどの専門家の家庭には電話がない。従って、各種の連絡は、車でかけずりまわる方法しかない現状といつてよい。実際、緊急事態が発生してもどうすることもできない。

ヴィエンチャンから東京へ国際電話は可能であるが、申し込んでから30分以上、時には2時間も待たされることがある。料金は3分間6,400キップである。その際留意すべきことは時差である。2時間の時差、例えばヴィエンチャンが9時なら日本時間(JST)は11時ということである。

Deposit (電気、水道)は無い。

## 2. 食 品

### (1) 食料事情

既して、日本に比較すれば野菜、果物類は安い。これらはタイから無税で輸入されているからである。主食の米はラオス人の場合、カオニャオ(モチ米)であるが、日本人の場合にはカオチャオ(ウルチ米)を買い求めている。慣れないうち

は、臭いがして食べにくい。普通、ウルチとモチ米を、3 : 1の割合で混ぜると食べ易いようである。

① 特に不足の品

○ 入手できないもの

ごぼう、こんにゃく、日本そば、そうめん、うどん、にぼし、かつおぶし、かんぴょう、わさび、アジ塩、佃煮、高野豆腐、のり、ひじき、わかめ等の海産物、らっきょう、梅干、羊かん、日本茶、但しインスタントコーヒーは、ヤミで入手できるが、輸入禁止品。

○ 入手できるもの

豆腐、小麦粉、沢庵、しいたけ、バター、ハム、ウイナーソーセージ、味の素、筍、日本酒、中華麵、韭、パセリ、セロリ、カレー、食用油、砂糖、塩、酢等々。その他野菜、果物は種類も豊富。

尚不足の品としては一般に海産物が挙げられる。魚は川魚はなまぜ、雷魚、魚付等々、メコン・ナムグム河で獲れたものが朝市で豊富に出廻っているが、海魚は全部がタイから輸入したもので鮮度が落ちるので刺身には向かないし、又種類も限定されていて日本人にはもの足りない。又すきやき用の高級な牛肉がないのでさびしい。高級肉として売り出されているものはあるが、冷凍品である。雨季には野菜が不足し、値段も2~3倍位にあがる。

② 日本食品の入手状況

味噌、しょう油、日本酒、日本製ウイスキー、味の素、

インスタントラーメン、缶詰、豆腐は入手できる。入手できないものについては上記、①参照のこと。これらの品についてはバンコックに出た際買い求めてくるか、日本から取り寄せるかしている。

③ 水、燃料（電気、ガス、炭）調理器具・調味料

水は一度沸とうさせて冷やして飲んでいる。水道の水は生水でも飲めるそうであるが、外国人の場合避けた方がよい。乳児のいる家庭では濾過器を使用した方がよい。

都市ガスはなく、輸入品のプロパンガス利用が一般的である。石油、炭を燃料としていることは外国人家庭では殆んどない。

調理器具は何でも揃っている。日本製の電気炊飯器、ガスレンジ、包丁、鍋類、フライパン等々。ただし、めししゃもじはない。

調味料で、七味とうがらし、わさび、味塩は現地調達ができないので、あらかじめ赴任前に取り揃えておくとよい。紅茶、ココア、中国茶はあるが、インスタントコーヒーは輸入禁止品となっている。ヤミで時々手に入ることもある。カレーはインド、英国製のものがある。

④ 日本食レストランの有無

グエンチャンに現在、3軒の日本食堂がある。定食1,500キップぐらいである。

その他中華料理店は3軒。フランス料理店は少なくとも5軒はある。ラオス料理店は随所にみられる。中華風食堂では中華風ラーメン、“ミーナム”及び“フーナム”が食べられ、結構日本人の嗜好に合うようである。更にスキヤ



キという名称でシャブシャブに似たものを食わせてくれる  
ところが2～3軒ある。

⑤ 食物についての注意

生水を飲まないこと、生肉を食べないこと、野菜はよく  
洗って食べることを励行されたい。停電が多いので冷蔵庫  
に生鮮食料品の買い溜めは、避けた方が無難。

(ロ) 価 格

単位：キップ  
(1キップ 0.5円相当)

分類	品 名	単 位	価 格	摘 要
米	うるち米(上米)	1 kg	300～350	雨季300～350、乾季200
	もち米( # )	1 kg	300～350	雨季300～350、乾季190
パン	フランスパン	1 本	120～150	(中)
	食パン	1 袋	300～400	薄切り20枚
	クロワッサン	1 ケ	170	
肉類	豚肉	1 kg	1,500～1,800	ブロイラー なし
	鶏肉	1 羽	1,200～1,500	
	牛肉(ひれ)	1 kg	1,500～1,800	
	牛肉(冷凍肉)	1 kg	2,500～2,800	
	水牛(ひれ)	1 kg	1,400～1,700	
魚類	アジ	1 kg	600	タコは入荷しない
	サバ	1 kg	700	
	イカ	1 kg	1,000	
	カニ	1 kg	1,200	
	エビ	1 kg	2,800～3,000	
	タチウオ	1 kg	600	
卵	鶏卵	1 ケ	大70、小60	

分類	品名	単位	価格	摘要
果物	なし	1 kg	2,500	
	りんご	1 kg	2,300~2,800	
	パイナップル	1 ケ	350~ 400	年中ある
	ミカン(上)	1 kg	700~ 800	ジュース用 300~500
	マンゴ	1 ケ	100~ 200	5月~6月
	マンゴスチン	1 kg	400~1,000	全上
	ドリアン	1 ケ	1,200~2,500	4月末~7月
	ブドウ	1 kg	800	
	スイカ	1 ケ	400	年中ある
	リュウカン	1 kg	1,200	7月~8月
	ランブータン	1 kg	400~ 600	6月~7月
	ジャカトウ	1 kg	600	
	柿	1 kg	400	日本の柿とは全く異なる
	パイナップル	1 ケ	300~ 350	
野菜類	人参	1 kg	200~1,200	雨季1,200、乾季200
	大根	1 kg	200~ 300	
	玉ネギ	1 kg	300~ 450	
	キャベツ	1 kg	400	
	ナスビ	1 kg	200	
	ジャガイモ	1 kg	450~ 500	
	トマト	1 kg	200~ 800	年中
	ピーマン	1 kg	800~4,000	雨季4,000、乾季800
	レタス	1 kg	250~ 500	
	白菜	1 kg	300~ 500	
	ハウレンソウ	1 kg	400~1,000	雨季はない
	レンコン	1 kg	400	年中
	サツマイモ	1 kg	150~ 200	

分類	品名	単位	価格	摘要
酒類	ビール Heineken(小瓶)	1本	300	オランダ
	ビール 33 (小瓶)	1本	300	ラオス BGL
	ジョニ赤	1本	5200~6000	
	ジョニ黒	1本	10,000	
	ヘネシー	1本	14,000	VSOP
	クルボアジェ	1本	12,000	VSOP
	レミーマーチン	1本	13,500	VSOP
	ナポレオン	1本	20,000	X.O.(40年)
	サントリーオールド	1本	5,500	
	日本酒	1本(1.8ℓ)	10,000	
たばこ	ダンヒル、ケント ウインストン、555 コンシュレット、サレム	1箱 (20本)	400	cf 国産 100~200
調味料	しょう油	800cc	1400~1600	キッコーマン
その他	酢(ラオス製)	1本	150	cf フランス製500、アメリカ製 800
	サラダ油	1ℓ	1,900	
	味噌	1kg	2,000	
	砂糖	1kg	300~400	
	塩	1kg	500~600	
	味の素	1袋(500g)	1,300~1,500	
	小麦粉	1kg	450	

#### (ハ) 外食

単身赴任者のほとんどすべてが外食である。1ヶ月30食  
分で20,000キップ。昼・夕食同額である。1日2食すれ  
ば40,000キップということになる。日本食堂と月ぎめ契

約をしている人が多い。契約しない場合、定食でフランス・日本料理とも約1,500キップというところである。

(=) その他……… 携行すべき調味料等

前述の通り、七味とうがらし、わさび粉、味塩、のり、わかめ、ひじき、かつお節、にぼし、かんぴょう、佃煮、梅干、らっきょう、羊かん、日本茶、日本そば、そうめん等。

3. 衣類および日用品

(1) 衣料事情

① 一般的衣料事情

綿製品が少ないので、日本から布地を持ってきて、現地で仕立てるとよい。特にシャツ類は合成繊維がほとんどで、綿製品を見つけることは難しい。子供用衣類、婦人・紳士用下着類・靴下等は多く取り揃えて持参することである。仕立賃はシャツで4～5ドル程度で非常に安い。従って作業着は現地で仕立てればよい。クリーニング代はスボン200キップ、背広上下600キップとこれ又安い。一般に洗濯機はメイドを雇うので不要である。もちろん洗濯の頻度は高い。

② 必要とする衣類

夏物でほぼ間に合うが、12月～1月頃には秋ものが必要になる。セーター、長袖シャツ、ジャンパーを着用するが背広はまず着ない。通常ノータイスタイルである。この涼季以外は半袖のワイシャツもしくは作業着で勤務する。勤務時間以外は、スポーツ・シャツ、アロハシャツにショートパンツで過ごすことが多い。ゴルフをやる人はゴルフ・

ウェアを用意されるとよい。雨季にレインコートを着用することはめったにない。

フォーマルウェアが要求されるのは、大使館主催の正月パーティー、天皇誕生日それに着任、帰国時の表敬の際くらいのものである。大使館主催のレセプションには必ずしも文面による招待状がくる。文面に所謂「平服」(Tenue de Ville)が記載されているが、これは普通礼服のことで男子は背広・ネクタイ着用のこと。他のパーティーではほとんどのケースが「軽装」(Comfortable)である。大臣、長官主催の立食形式のパーティーでも、軽装ならば、男子はアロハシャツスタイルである。

帽子は市販のものはだいたいサイズが小さく、デザインも悪く、値段も高いので、麦わら帽子、烏打帽子(ハンティング)等を持参するとよい。

女子の場合、訪問着、イブニングドレス、カクテルドレスがあればよいが、略式でいけるのでスーツあるいはワンピースで代替できる。パンタロンスーツやマキシのワンピース等々。ある程度のエチケットをまもればよく、余り堅苦しい雰囲気は見られない。

③ 携行すべきもの

毛布、タオルケット、木綿の下着類、木綿の布地(仕立て用)、セーター、カーディガン、ジャンパー、ショートパンツ、帽子、子供の運動靴(ズック靴)、上履スリッパ(来客用も含めて)……。

- (ロ) 日用品……特に高価なもの又は入手困難なもの  
子供の玩具、事務用品(特に良質の鉛筆、大学ノート、手

帳、コピー集計用紙、トレーシングペーパー)、趣味用具  
(昆虫採集道具、絵画用具、釣具、ゴルフセット、彫刻刀  
など。)

け 乳幼児を同伴する場合の注意(食料、衣類、日用品等)  
汗疹、湿疹、虫さされ、けが等に最低限度必要な塗り薬  
等その他救急医薬品を赴任前に医者、薬局に相談して準備  
しておくこと。その他上述のこと以外特記することはない。

4. 使用人………召使、コック、庭師、子守、守衛、運転手等

① 職業紹介所の有無

無い。

② 紹介所が無い場合の具体的雇用方法、斡旋方法

知人の紹介が最良。身許の保証が確実でないものは絶対避  
けるべきである。一つの方法として帰国して行く専門家の使  
用人を引き継ぐことが考えられる。

③ 通常の給与月額

最低賃金の規定はない。

女 中 16,000～18,000キップ(1～2食込)

庭 師 15,000キップ

運転手 25,000～30,000キップ

守 衛 20,000～25,000キップ

④ 最低必要とする使用人の種類および人数

女中一人。治安が悪いので出来れば守衛も雇った方がよい。  
運転手は専門家の運転技術如何で必要度が決る。運転手とい  
っても必ずしも運転上手とは言い切れない。自動車の毎日の  
点検整備もろくにやれないのがいる。

⑤ 雇用・解雇に際してとくに注意すべき事項

一般に勤労意欲がない者が多い。一旦雇ったからにはエチケット、勤労時間、仕事の質等きびしく言った方がよい。日本人以外の外国人の家庭では相当きびしくやっていると聞く。よく言われることは、日本人に使われていた使用人は雇っても使いものにならないということである。ベトナム・中国系はよく働くが、給与額も自然高くなる。しかし残念なことに雇える数が少ないのでなかなか見つからない。ラオ人、タイ人が多い。使用言語はラオス語で英語を解するものは少ない。

解雇の際は通常1ヶ月前に通告するのが慣例であるが、即時解雇も可能である。盗難には特に注意することである。

⑥ Union の有無及其の実態

無し。

5. 医 療

(1) 医療事情

ヴィエンチャン州に人口が約35万人、ヴィエンチャン市内にその半、18万人がいるが、ラオス全人口320万人に対して医者(Doctor)の数はほんの30人しかない。そのうち28人までが、ヴィエンチャンに集中していて、地方に行けば医者は皆無の状態に等しい。Medical Assistant(医学校4年卒業のもの—大学レベルではない)の数が全土で100人足らずという現状。上記の数に、歯科、産婦人科、薬剤関係は含まれていない。

メデカルアシスタントはこゝではドクターと呼ばれているが、いわば医者と看護婦の中間ぐらいの地位である。

ラオスの医療制度の特徴はフランス式の医療分業ということである。医者にかかって処方箋を書いてもらい薬局で売薬を買うことになる。注射の場合も通常そうである。一旦薬局へ行って注射薬を買って求め、又医者のところへそれを持って行って注射してもらおうといった何か時代遅れのシステムである。

ラオスに医科単科大学ができて4年になる。7年制(インターンも含む)であるのでまだ卒業生はでていない。

① 医療施設、救急病院、病院の利用方法(予約制等)

王立病院として次の2つがある。

- マホソット病院(ベッド数272、  
医師25~30、ほとんどがフランス人医師)
- シサバンボン陸軍病院………ベッド数等不明  
建物はアメリカの援助、現在はラオス人の  
医師だけで運営、軍以外一般の人も診察する。

王立ではないが援助関係の病院として、セタティラ病院(OB病院とも言う)がある。USAIDの資金援助で経営されているが、昭和50年にはラオス政府へ移管されるそうである。ベッド数113、医師約20人このうちほとんどがフィリッピン人医師である。

病院としては上記3つしかないが、マホソットとセタティラを日本人専門家は一般に利用している。陸軍病院は薬剤も少ないと聞く。予約制はないようである。但し歯科、産婦人科、眼科等は予約制になっている。

救急病院としては上記のマホソット及びセタティラを利



用している。もしくはバンコックの病院ということになるが、飛行機便が、1日1回という不便さで、いざという時には間に合わない。

② 日本人医師の有無、大使館医務官の有無

現在ヴィエンチャンには日本人医師は2人だけである。1人はタゴン診療所の山口医師（国際協力事業団派遣）、あと1人は博愛クリニックの小川医師である。大使館医務官はいないが、タイから年3回、大使館スタッフの健康診断に巡回班が派遣されている。在留邦人全部を対象とした巡回医師団が外務省の委託で当地へ年1回派遣されている。これは47年度から始まったもので無料健康相談が行われている。

③ 出産の安全性

ほとんどの人が当地で出産しておられる。心配ならばバンコックまで行くことになる。アメリカ人の場合はバンコックに行っているケースが多くみられる。出産・中垂炎の手術は心配だという声もなかにはあるが、日本人医師によれば心配することはないということである。出産・健康相談等に関しては新しく母子センターができたので利用されるとよい。

マホソット病院、セタティラ病院、マノロット診療所等での出産が一般的である。

(ロ) 医薬品……………日本から持参すべき薬品

乳幼児の場合、かぜ、下痢の為の抗生物質のシロップ、かゆみ・虫さされ用の軟膏、それにベビーパウダー、下熱剤等でよい。もしぜんそく等の症状があれば掛りつけの医者にご相談

談して日本から薬剤を持参することをすすめる。粉ミルクは少々高いが、市販されている。

大人の場合は、ワカ末、ピオフェルミンそれに抗生物質のテラマイシン・クロマイを持参する程度でよい。ヴィエンチャン在住の場合はマラリヤの予防薬（例えば、レゾヒン）は不要である。もし地方へ出張する機会が多い人は用意されておかれた方がよい。高血圧の人は、降圧剤を持参のこと。その他は市販のもので大体間にあう。

#### (4) 疾病の種類

① 日本人が罹り易い疾病………普通のかぜ、喉頭炎、気管支炎、下痢（胃腸カタル・赤痢）、寄生虫病、デング熱、性病。結核はラオス人は多いが日本人は少ない。熱帯特有の病気は少ない。生水を飲まなければアメーバ赤痢には罹ることはない。

日本人（Vientiane 在住）でマラリヤに罹った人は今までに無いとのことである。

② 日本出発前に特に予防注射しておくべきもの

コレラ、種痘は強制的なもの。その他乳幼児については、D. P. T.（破傷風、百日咳、ジフテリアの所謂三種混合）と B. C. G. もやっておいた方がよい。大人は破傷風及び腸チフス・パラチフスの三種混合の予防注射をしておく方がよい。

#### (5) 健康管理上の注意事項

- I) 生水を飲まない、生肉を食べない、生野菜はよく洗う。
- II) 炎天下では帽子をかぶる。
- III) 睡眠を充分にとり過労・暴飲暴食を避ける。昼寝の習慣をつける。

IV) 4～6ヶ月に一度駆虫剤をのむ(回虫、糸虫等の駆除)  
……サントニン等。

V) 妻帯者は同伴が望ましい。(栄養バランスをとると同時に、規則正しい生活維持のため)

## 6. 子弟の教育機関

### (1) 教育制度の概要と教育機関(幼稚園、小中高校等)

教育制度はフレンチシステムである。公立の保育園・幼稚園はなく、義務教育である初等教育6年を終了したあと、それで止めて了うものと進学するものに分けられる。ラオスの教育制度は非常に混み入っていて又正確な統計がないため現状を把握することは難しい。学校によって中学卒の年齢が異なる。ある技術系中学校では3年、又同じ技術系中学校でもなかには5年掛るところもあるといった具合である。用語として Collège は中学校もしくは専門学校を指すし、Lycée は高等学校を意味している。高等学校レベルのものがヴィエンチャンに6つある。大学は3つあるがすべて単科大学である。

小学校から大学まで入学試験がある。地方出身者の都心への越境入学も自由である。奨学金制度が全生徒・学生に適用される。その為、授業料は全員無料である。

教育部門は現在も尚、フランス政府が相当力を入れて援助している。その他の国では、アメリカ、日本、ドイツの順になっている。ソ連、カナダ、英国、オーストラリア、タイからも人を送っている。

外国語(フランス語、英語、日本語等)は小学校4年生か

ら習い始める。

次に推定による統計数字を拾ってみると、

I) 学校数(ラオス全体)	[学校数]	[生徒数]	[教師数]
小学校	約2,500校	275,000人	215人
中学校(普通)	14	2,400	100
技術工業学校(中学レベル)	2	1,100	140
高等学校(技術系)	7	400	80
# (リセイ)	4	5,000	215
# (ファグム)	5	2,200	130
# (その他)	?	?	?
大学(単科大学)	3	?	?

II) ヴィエンチャンにある高等学校及び大学

(高校) : 6校

- リセイヴィエンチャン ..... フランスの援助
- ファグムスクール ..... 米国
- リセйтеクニクヴィエンチャン ..... フランス、イギリス、日本
- ドンドック普通高校 ..... フランス、米国
- ドンドック農業学校(ERASP) ..... フランス
- ドンドック林業学校 ..... オーストラリア

(大学) : 3校

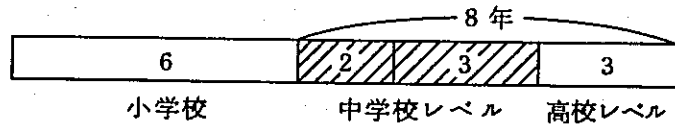
- 国立医科大学 ..... 7年制 (インターンを含む)
- 国立師範学校 ..... 4年制 (ドンドックにある)
- 国立法律・行政学校(IRDA)

### iii) 教育制度

#### ○ リセイヴィエンチャンの場合



#### ○ リセイテックヴィエンチャンの場合



cf ラオジャーマンスクールは、中学レベルの技術工業学校であるが、3年間のコースで、中卒の免状及び証書がもらえる。

尚、ラオス全土での外国人講師の数は、フランス人260人、アメリカ人38人、日本人6人、ドイツ人3人、その他となっている。

#### (ロ) 専門家の子弟が利用している教育機関の実例

幼稚園は数が限られている。英語系ではインターナショナルスクール、アメリカンスクール、フランス語系としては、アリアンス・フランセーズ、M. M. F. が挙げられる。その他特別に49年3月に発足したラオス日本人会幼稚園（毎週2回だけ）がある。なかでもインターナショナルスクールの利用者が多い。

小学校はインターナショナルスクール、アメリカンスクール、M. M. F.、リセイの4つぐらいがあげられよう。やはり多くの家庭がインターナショナルスクールに子弟を通学させている。その他、土曜日だけであるが日本大使館付属日本語補

習校がある。

中学校になるとアメリカンスクール或はリセイ以外になく諸般の事情を考えると通常現地通学は難しいと思われる。

(イ) 授業料

〔幼稚園〕	インターナショナルスクール	年間	約 500 ドル
	アメリカンスクール	年間	900 ドル
	アリアンス・フランセーズ	月	6,000キップ
	M. M. F.	月	12,000キップ
	ラオス日本人会幼稚園	月	3,000キップ
〔小学校〕	インターナショナルスクール	月	90 ドル
	アメリカンスクール	年間	1,000 ドル
	M. M. F.	月	15,000キップ
	リセイ		非常に安い

小学校教育ともなれば語学能力が問題になるので、語学の家庭教師を頼むケースが多いが、通常最低3ヶ月は必要として、約500～600ドルをみておくこと。毎日1.5～2時間習ったとして、月50時間×\$3./hr×3ヶ月の計算である。通学方法は学校の送迎バス利用、通学時間15～20分、給食はない。

7. 娯楽設備

(イ) 保養地、ゴルフ、ボーリング、映画等

ヴィエンチャン周辺で観光資源としては、20～30の寺院以外にない。タットルアン、ブラケオ、シサケット、オンテウ、シムオン等の代表的な寺院がある。

(ロ) 避暑地としてはブーカオクワイ(ヴィエンチャンの北東

80 km)、南部のパクソン(パクセの東)があげられるが安全の保証がない現在気楽に出かけられない悩みがある。従って避暑、保養の目的で行ける場所は現在のところないといってよからう。タイ、ビルマ、マレーシャ、シンガポールの国外へ出向くことが考えられるが、専門家の場合、時間的余裕があるかどうか疑問である。又任国外出張の際、国際協力事業団本部の許可を取る必要があることと絡み合わせるとそう簡単には行かないようである。

ルアンブラバンは古い歴史をもつ王都で、王宮のほか無数の寺院がある。サバナケット周辺の遺跡、パクセ周辺にはカンボジア国境近くに東洋一といわれるコーンの瀑布があり、又クメール帝国の遺跡であるワットプー(寺)がある。

実際、どこにも行けない、行くところがないというのが本音である。ドライブは、ルアンブラバンまでは国道13号線沿いに行けるが、南の方へはまだ行けそうにない現状である。

ゴルフ場はワットタイ飛行場内にある、ヴィエンチャンゴルフクラブワットタイコース(9ホール)1つだけがあり、毎週コンペがもたれている。ボーリング場も市内に1つあるだけ。10レーンしかないが利用者が多いので、団体の場合必ず予約しなければならない。映画館は市内に約10ヶ所程あるが、そのうち2ヶ所で、遅れたプリントの英語版を上映している。その他はタイ語、中国語版もしくはインド映画のふきかえを上映している。市内映画館を借り切つての、日本大使館主催の日本映画会が時折ある。

テレビはあるが、タイからの中継なので画面が見づらくまた聞いたタイ語であるために日本人の生活の中にはとけ込んでいな

いのが実情である。大使館主催によるテレビ（ビデオ）視聴会が定期的でありNHK番組がみられるのが何よりの楽しみの一つとなっている。

(ロ) 通常の余暇の過ごし方

ボーリング、テニス、水泳、ゴルフ、葉の採集、読書ぐらいのものである。魚釣は適当なアナ場もなく釣れないので面白くない。ヴィエンチャンから90km離れたナムグムダムへは時々ドライブに出かける人がある。子供を連れてサムハーの公園に出かけたり、タデウアの船渡し場の風景を見に車をとばすことも気分転換になる。その他歩いてのウィンドーショッピングも面白い。

(ハ) 日本人クラブ、スポーツクラブの有無、料金

日本人クラブはないが、囲碁同好会等はある。スポーツクラブとしては、ヴィエンチャンテニスクラブ、ヴィエンチャンゴルフクラブがある。料金は、テニスクラブは終身10,000キップ程度、ゴルフクラブは毎月5,000キップ（グリーンフィー）である。入会金20,000キップ。その他、ラオス日本人会の生活部の活動の一環として、定期的に婦人ボーリング大会がひらかれている。テニス・水泳は日本大使館の施設を利用している。

8. 電 力

電圧は110Vの地区もあるが、ほとんどの地区が220Vである。将来は220Vに一本化することになっている。50サイクル。電圧の変動が激しく扇風機がとまることもある。停電が多く、冷蔵庫の中の生鮮食料品（魚、肉、卵等）が腐敗す



るおそれが多分にあるので留意のこと。

## 9. 交 通

### (1) 交通事情

#### ① 一般交通機関の発達度と種類

マダガスカルには汽車、電車、バス等公共のものがないので唯一の交通機関といえばタクシーとサムロー（三輪自転車）となっている。料金はタクシーで市内は100～200キップ、サムローで100～150キップというところである。料金は乗る前に談合によって決め、双方が合意したら“ゴー”である。タクシーは乗り合いタクシーなので助手席から客席まで乗せれるだけいっぱい人を詰め込む。方向指示器がこわれ、ライトもバックランプもつかないボンコツ（約20万km走行のもの）がガタビシ走り廻っている。信号の数も8ヶ所と非常に少ない。市内の制限時速は30kmである。ランサン通りを除けば他の道路は、中央分離帯もセンターラインもない。

市バスというものもない。ただバスと呼ばれるもので長距離用のトラックを改造したもの、いわゆるトラックバスがある。これでルアンブラバンまで行けるが通常日本人とは関係がない。ルアンブラバン、サバナケット方面へは飛行機利用が多い。料金は、ヴィエンチャンからルアンブラバンまで片道10,000Kぐらいである。サバナケットまでもほぼ同じぐらいの料金である。

#### ② 道路事情（舗装状況等）、運転上の注意

市内は舗装されているが、裏通りは未舗装なので乾季は

ほこりが多く、雨季はぬかるむ。国道13号線もいったん市内を離れるとところどころしか舗装されていない。舗装といってもここで意味するのはアスファルト舗装であるが、ラテライト舗装つまり簡易舗装が多くみられる。このラテライト舗装の場合、乾季は通称“センタク板”になり易く、雨季は“オシルコ”状のドロコ道に早変わりするので、スリップには特に注意することである。又アスファルト及びラテライト舗装のいずれも路肩の整備が悪いこと、小石が多くフロントガラス及び窓ガラスがよく割れていること、起伏が多く道路が平坦でないこと等をよく念頭に入れておくことである。補修工事があまり整備されていないので、道路コンディションは悪い。

③ とくに注意すべき交通法規

右側通行（車輛）である。一方通行・駐車禁止・警笛無用のところがあるので注意すること。又偶数日、奇数日によって駐車すべき側を決めたところがある。その他日本ほど厳しいルールはないようである。スピード違反の検挙、飲酒運転等の取り締りはやっていない。

信号、交通標識の数が少なすぎる。もう一つ注意することはボンゴツ車の後ろを運転している際である。急停車されてもテイルランプがつかなくなったり、方向指示器が機能しなかったりすることが多いので危険である。夜間運転では無灯火の車や片目の車が多いので充分気をつけること。

④ 交通事故の取扱い

小さな事故の場合示談ですんなり行くことが多いが、事故の程度がひどければ警官を立合いに入れた方が望ましい。

通常どんな場合でも外国人は不利であるので、もし話し合いがつかない場合は必ず警官を呼ぶことである。ラオス人は自分に落度があっても決して悪かったと謝らないから、へたに日本人等の外人があやまろうものならたちまち加害者となるおそれがあるので、たとえ加害者であってもはっきりした態度で臨む必要がある。問題はイージーゴーイングな考え方で事故を処理しないことであろう。

⑤ 事故補償（保険制度、保険金、補償額等）

掛金は3ヶ月、6ヶ月、1年ものがあるが保険金は年間掛金の場合で120,000キップである。補償は対人、対物、車体、盗難、火災が対象である。盗難及び火災の場合は車購入金額の全額が填補される。対人は最高一人500,000キップまで。ケガ人は10,000キップ。本人が起した事故で車が相当破損した場合でも最高約300,000キップは填補される。

(ロ) タクシー、ハイヤーの利用、料金

タクシーは剩り合いである。料金は市内の場合100～200程度。ハイヤーは1日25ドル（クーラー付）、クーラー付でないものは1日15ドル程度である。

(ハ) レンタカー

料金は1,200～1,600ccクラスで1日1.0～1.5ドル。少なくとも1週間以上の契約でないと応じてくれない。レンタカー専門業者はいないし又それだけに利用者も少ないようである。

(二) 自動車購入

① 購入方法、融資方法、部品の有無等

東銀ローンが利用されている。最高限度額3,000ドル。事業団本部で融資方法等詳細説明を受けることができるし又、各事業部で発行の専門家の手引を参照すればよい。

自動車購入に際しては、取扱代理店(商社)の関係から自動車メーカーもしぼられてくる。三井物産の場合は一般にトヨタが主力であり、東綿の場合はマツダという具合である。従って、トヨタかマツダぐらいにしぼられるのはやむを得ないことである。部品の調達は商社経由でなく、自動車修理店でやってくれる。ヴィエンチャンにないときは、バンコックから取り寄せている。その際3~4週間ぐらいは掛る。

又現地で外車(フィアット、フォルクスワーゲン)も購入できる。中古車もあるが部品や性能を考えると専門家の場合には新車購入をすすめる。

② 免税輸入特権について

外交及び援助関係者ならば免税輸入特権が与えられている。ナンバープレートは専門家の場合はITナンバーをつける。2,000ccクラスの乗用車で関税は100パーセント以上である。

③ 帰国時の売却方法、課税

新聞広告を出すか又は帰国前に For Sale の貼紙をして走る方法が考えられる。自動車修理店若しくは商店の主人から事前に買いたい旨の申し出があることも多い。いずれにせよ需要は今のところ多いようである。一般市民に売

却する場合は購入者が税金を負担することになる。手続は一切被譲渡人が行うのが慣例である。

(外) 運転免許

① 国際免許の有効性

有効である。

② 免許取得の方法、経費等

現在、毎週実地試験が行なわれている。手数料は約2,000キップである。実地試験場といっても唯、広場にドラムカンもしくは棒切れ、石ころを置いて仕切りをした間に合わせの場所が試験場である。試験内容は前・後進の右折、左折で終りである。最近はそれにバックでの車庫入れが加わっているようである。非常に簡単で難なくパスする。このあと簡単な学科試験があるが、これも問題ない。

(内) ガソリン代

現在レギュラー1ℓあたり142キップ、スーパー155キップである。過去1ケ年で2.5倍の値上りである。

10. 為 替

(イ) 相 場

公定は1ドル600キップ。闇レートは840キップと40%公定よりも高い。これが又最近キップ貨が弱くなり、1ドル1,000～1,100キップの闇レートがうわさされている。インフレが極度に進行し貨幣価値が下落し、相場は非常に不安定になっている。デノミ論が芽ばえ始めている現状である。49年7月末に銀行閉鎖でひと騒ぎの一幕もあった。

(ロ) 対日送金

46年11月の通貨改革以来、当地の銀行に外貨建の口座をもつことができなくなった。以来専門家のドル預金口座はニューヨーク東京信託銀行に移った。対日送金については、東京信託銀行の送金申込書を送付してもらい送金額、希望振込銀行名、送金方法等を書き入れて送り返すだけでよい。入金には30～40日の日数を要する。

(ハ) 滞在費等の受取方法

ニューヨーク東京信託銀行の小切手帳が赴任後間もなく郵送されてくるが、その小切手とパスポートをもってインドシナ銀行に行つて割引してもらひ訳である。割引率0.7%である。学校の授業料、新聞購読料、家賃等ドル払いが必要なのでドル引出しも可能である。

11. 出入国管理

(イ) 税関検査

① 一般事情

ラオスの場合あまりきびしいチェックはない。公用旅券ならばフリーパスに近い状態である。バンコック経由で来寮するケースがほとんどであるが、バンコックの税関では厳しい検査がある。入国の際無税持込可能なものは下記のとおりである。

巻きたばこ	500本
葉巻き	100本
刻みたばこ	500g
ぶどう酒	2本

アルコール	1 本
香水	500 cc
宝石類	500 円
カメラ	2 (カメラ1台につきフィルム10本)
ムービーカメラ	1 + フィルム2本
テープレコーダー	1 台
タイプライター	1 台 (ポータブルタイプ)
ポータブルラジオ	1 台
双眼鏡	1
レコードプレーヤー	1 台 + レコード10枚
ライフル銃	2 丁 (狩猟用)
運動具	各1セット

出国の際、一切制限なし(禁止品以外)

② 持込禁止品

インスタントコーヒー、石鹼、ゴム草履、マッチ、釘、  
その他(サッカリン、酸素、雷管、木炭、れんが、かわら、  
氷、インド大麻、麻薬)

③ 入国に際しての注意事項

とくになし。(予防注射はコレラと天然痘はやっておく  
こと)

④ 持出禁止品

麻薬、仏像

(四) 外人登録の有無

入国ビザを滞在ビザに切替え、身分証明書の発給を大使館  
で受ける。

(ハ) ビザの更的手続等

すべて大使館に依頼している。タイへの数次ビザも自動的に取ってくれる。(有効期間 6ヶ月)。

(ニ) 任国外旅行上の手続、注意

国際協力事業団へ手紙か電報で任国外旅行の許可を取りつけると同時にコレラの予防注射を受け、イエローカードに証明してもらい。そして目的国の査証とラオスの数次査証が、再入国の際、有効であるかどうかを確認する。更にパスポートの渡航先の欄に行き先の国名を追加してもらうこと。もし記載されていればその必要はない。

12. 便宜供与

(イ) 便宜供与の種類

① 住宅手当等の現金供与

ない。

② 出張旅費、公用車の提供、ガソリン代の支給の有無

すべてない。

③ その他(住宅提供、現物供与等)

ない。

(ロ) カウンターパート、通訳

カウンターパートは一応つけられているが、果して専門家のカウンターパートに応じた人材かどうかは疑わしい。まさに専門分野を持ち合わせていないようなズブの素人でもカウンターパートとして配属されているケースが多々ある。フランス留学組は昇進も早いようで、なかには帰国後やめてよりよい職を求めてゆく者が見受けられる。多くの



のカウンターパートが高卒程度でレベルが低い。

通訳はつけられていない。

(4) 免税特権

自動車、冷蔵庫、ステレオ、エアコン、ガスレンジ、湯わかし器等が免税購入できる。但し購入時に販売店の瞭解をとりつける必要がある。アナカンによる身廻品は無税である。酒・タバコ・香水等は免税特権がない。

13. 通信、運輸

(1) 郵便事情

① 安全性、配達システム

ポストは市内に2～3ヶ所あるが、絶対数において足りない。結局、中央郵便局まで足を運ばなければならない。信書が手許に届かない場合もある。なかには半年も掛って着いた場合もあるがこれなどは切手をはがしてあった。従って発信の場合は書留にするか又は切手にスタンプをおさして投函するといった方法を考える必要がある。手紙の配達はずべて日本大使館宛にしてもらっている。P. O. Boxも利用できるが、1ヶ月3,000キップ程度の料金を払わなければならない。配達は大統領気付の場合の方が安全なので、宛名をすべてA/S Ambassade du Japon、Vientiane、Laos としてもらうこと。

② 電報、電話サービス

電報は中央郵便局の窓口で受けられる。普通電報で日本まで1.5日みておけばよい。一方書信電報(LT: Letter Telegram)ならば2日位かかるが、料金が普通

電報の約半額と割安であるので通常はこのLTが利用されている。この書信電報は、普通電報同様、ローマ字で書いて日本語で打電できる。全て大文字で書き、ダブルスペーシング（1行空ける）とする。

15文字で1語の計算なので、例えばTANAKASE-NMONKA NO ICHI JIKIKOKUWA …… で、3語である。21語までが最低料金なので、18語でも21語とみなされる。最低料金3,022キップである。

電話は加入電話のみで公衆電話というものが無い。専門家で家庭に電話をもっている人は非常に少ない。回線数はヴィエンチャン市内には、2,000しかなく、電話の設置の可能性は、殆んどない。長距離電話はヴィエンチャン—東京間で一通話（3分）6,400キップである。

③ 手紙、電報の日本、現地間の所要日数

手紙は、3～7日かかる。電報は Ordinary で1～1.5日、LTで1.5～2日ぐらい。

④ 主要地方都市との連絡方法

電話がかけられるのは、バクセ、サバナケットおよびアンブラバンの三市のみ。郵便は2日みておけばよい。

(ロ) 運 送

① 陸送、海送業者の有無、料金

日本から送った貨物の引取りには大使館のトラックを利用させてもらっている。ヴィエンチャンから日本国内への運送は、VANPAO ASIA 及び AMERICAN TRANSPAC LAO の2社がある。帰国の際の貨物は、全て重量だけで引受けている。パッキング、運賃、保険料、

アナーパッキング込みで Door から Door までの条件で 100 ポンド当り \$ 58.55 ( 1 kg ≒ 2.2 ポンド ) である。通常 6 週間掛るといふが時には 4 ケ月もかかるケースがあるので、日本での連絡先 ( 代理店等 ) をよく調べておくこと。

② 家財送付上の手続、宛名注意事項

日本からヴィエンチャンに送る場合は、日本大使館気付とする。常に荷受人 ( Consignee ) は本人としておくことで、もし B/L ( Bill of Lading : 船荷証券 ) もしくは Airway Bill ( 航空貨物受取証 ) の記載が本人以外の荷受人となっていれば、貨物の引取りが困難となる場合があるのでよく注意されたい。ステレオ等の高価なものを送る際は付保 ( 保険をかける ) しておいた方が安全である。

ヴィエンチャンから日本へ送る場合は業者に輸送を一貫させて引受けさせることである。その場合、OIF よりは Door to Door <sup>(代)</sup> 建て即ち持ち込み渡し条件 ( Franco という ) にする方が便利がよく問い合わせ等もスムーズに行く。通常 2 ケ月ぐらいで貨物が到着するが、ときには 4 ケ月も掛ったケースもある ( 海上輸送で ) 。

14. 言語

(1) 公用語、英語その他第 1 外国語の普及度

公用語はラオス語。但し公文書は未だフランス語である。最近公用語をラオス語に一本化し、入学試験等も従来のフランス語からラオス語へ切り替えている。フランス語は旧フランス領であったことに大きな影響を受けており、依然教育関

係ではフランス語が主に使用されている。しかし最近では英語が普及し、若い世代の人々には英語で通用するようになってきている。ホテル、レストラン、役所、商店といったところで英語によるコミュニケーションが可能である。特に隣接国、タイそして又最も援助額において依存度の高い米国との関連から英語の使用は、必須条件である。更に日本での海外技術研修との絡みあいからみても英語を知らなければ留学のチャンスに恵まれないということになる。日本語の学習もさかんになってきた昨今である。

(ロ) 現地語事前学習の必要性

日常生活そして現場においてはやはりラオス語によるやりとりが多いので、ラオス語の習得は専門家にとって不可欠となる。赴任後現地人に習っても基礎ができていないと、発音練習にばかり時間をとられ体系的知識が身につかないので途中で興味を失い挫折することも考えられる。そこで事前に文法を学習しておくことが望ましい。協力隊員の人々は3ヶ月位の事前学習で基礎ができていたので、専門家に較べてはるかに上達が早い事実を勧案すればその必要性を理解していただけることであろう。

(ハ) 語学学習の施設、受講時間等

ラオス語については、英語のできるラオ人家庭教師をたのむことになるが、料金は1時間1,500キップ前後である。フランス語、英語も家庭教師について学習しているケースが多い。時間当り謝金は3ドル前後である。夜間の語学学習施設もあるが時間帯及び週5日連続開講等の理由で利用は一般的に言って難しい。ラオアメリカンアソシエーションの場合

は、1クラス20人前後で8教室あり、試験が中間、期末の2回ある。プログラムは3ヶ月単位で、グレードはA～Dに分けられている。落第もあるということで、かなり厳しい教育方針をとっているようである。募集は3月、6月、9月、12月と年4回。1プログラム(3ヶ月)で授業料は5,000キップである。

#### 15. 気 候

気候を大別すれば雨季(5～10月)と乾季(11～4月)に分けられる。気温は1月～2月の間が最も低く、4月～6月の間が最も高くなる。湿度は7月～8月が90～95%で年間最も高い。最低気温は1～2月の10度前後であるが、1974年1月には異例、19年ぶりの4℃を記録した。雨量は7～8月が最も多く、月間降雨量の最高は過去3年間のデータで1971年7月の482.1ミリである。雨季の雨は雷を伴ったはげしいスコールで、断続的である。

#### 16. 治 安

##### (1) 一般情勢

1974年4月に連合政府が成立して約5ヶ月を経過した現在でもなお、外国軍隊の完全撤退は実現しておらず、旧ヴィエンチャン政府側、パテトラオ側双方とも厳しい非難合戦を展開する等、政治抗争も一段と活発になってきておりイデオロギー、利害関係の対立からは完全に脱し切っていない現状である。

この政治不安と相俟って経済情勢が悪化している今日、社

会不安の増大は隠せない事実となっている。通貨不安は、7月末に頂点に達し、必死の政府の防衛手段にも拘らず、ドルの閣レートが、1ドル840キップから約1,000キップ台に跳ね上っていった。それにより物価も軒並に上昇し、平均物価上昇率は30%を越え、インフレムードに更に拍車をかけ、事態は深刻になってきた。

それに米軍等の撤退に絡み、ラオス現地人の失業者（退役軍人、ガードマン、運転手、女中等）の数も増えており、治安は悪くなる一方である。盗難もひんぱんに発生しているようなので、戸締りを厳重にすること。番犬をおくか、ガードマンを雇う等の防衛手段を講じることが必要であろう。

(ロ) 夜間外出上の注意

非常事態発生の際、外出禁止令（カーフィュー）が布告されるが、これが非常に長く続く。いずれ自然解除という形になるが、検問にひっかかると一晩の“留置”は覚悟しなければならない。現在は夜12時以降のバー、キャバレー、飲食店及びその他すべての営業が禁止されている。やくざはいないようであるが、チコと呼ばれる不良グループがいるので警戒を要する。

(ハ) 緊急時における大使館又は駐在員との連絡方法、集合場所及び要領

電話がないので、緊急時には車で大使館へ駆けつけるしか方法がない。現在のところ避難場所が指定されていないので、すべての連絡は大使館となろう。

## 17. その他

### (イ) 対日感情・現地人気質

対日感情は悪くないと思われる。日本製品も多く市場に出廻っているが、タイ国の様なボイコット運動は今の処全然みられない。ラオス国への日本の進出企業が少ないせいもある。現地人気質を一概に述べることは難しい。このヴィエンチャンの外国人居住者は非常に多く、なかでも華僑、ベトナム人、タイ人は外国人と言えない程数が多い。これが、ヴィエンチャンは「外国人の街」との形容をもって呼ばれる所以であろう。商店街は殆んどが華僑、ベトナム人、インド人等によって占められており、ラオス人の店は中心街には少ない。

ラオス人は一般的に言ってのんびりしていて、あまり動かないようである。そのせいかスポーツもあまりやらずのんびりと昼寝か木陰で休憩している姿を見受ける。したがって日常何事につけても悠長で緩慢で、我々日本人からみて歯がゆい思いに駆られることが多い。

一般に気質がおおらかなので、日本人みたいにこせこせしたところがない。相手の仕事又はプライベートなことには余り干渉しないようである。貧しさを感じさせない生活のゆとりがみられるのは、食料が豊富に得られるせいなのか。彼等には沼地あたりの水草、野山の昆虫、小魚、時にはヘビ、カエル、ネズミ等もすべてが食用になる。小乗仏教の影響で富める者が貧しきを助けることになっているせいも人間相互の連帯感は相当強いようである。

(ロ) 新聞・雑誌等

① 日本よりの購読方法及び販売店の有無

新聞、雑誌の購読は市内の Kaye Ando に依頼するケースが多くみられる。なかには日本からの郵送に頼っている人もいる。新聞は2～3日遅れ、雑誌は週刊誌、月刊誌とも7日～10日遅れとみておけば良い。

購読料は新聞が34,700キップ/月、週刊誌が1,600～2,000キップ/冊である。予約購読でなければ、同店の販売部数が少ないのであらゆる雑誌類はすぐ売り切れてしまうので注意を要する。

② 現地TV、ラジオ放送（日本から持参するラジオ、テレビの注意事項）

テレビ放送はラオではやっていないので持参しても意味がない。但しタイから中継放送はやっているが言葉がタイ語、画面はシロクロ、テンポが遅い、映りが悪い等の理由でテレビは殆んどの日本人家庭には取付けられていない。

ラジオはNHKの海外向放送番組が聞けるが、相当感度のよいトランジスタラジオでないと無理である。当地にもソニー、フィリップス等のメーカー品が出廻っているが値段が日本より10～20%高い。それを覚悟すればわざわざ日本から持ち込む必要はない。注意事項としては別に何も無い。

(ハ) 風俗、習慣

① 特に禁じられている風俗、食習慣、チップ等

頭は神の「よりしろ」で子供の頭をなでてはいけないそうである。それから女性が僧侶にさわってはいけないこと



になっている。禁止とまではゆかないが一般に女性が寺院に足を踏み入れることもできないとされている。

その他、左手で相手に物を手渡したり、他人を指さすことを嫌う習慣もあるので注意を要する。

食習慣としては特別にない。チップは飛行場のポーター代、ホテルのベルボーイに各々100～200キップ渡せばよい。それ以外では殆んど必要がない。

## ② 専門家としての体面

特にない。

### (一) 理髪店、美容院、クリーニング店……………衛生度、料金等

男子理髪1,000キップ、女子パーマ2,000～8,000キップ、セット1,000～1,500キップ、ワイシャツクリーニング120キップ、ズボン200キップ、背広上下600キップ。衛生度も、この料金程度の店ではまずまずといったところである。但しあまりきれいだとは言い兼ねる。

### (二) 買物

ラオスにはデパート、スーパーマーケットのたぐいはない。しかし規模においても東洋でも最大級の朝市(タラーサオ)があるので、そこへ行けば衣・食に関するものは何でも手に入る。肉や野菜の生鮮食料品は朝6～7時頃、早く行って買い求めないと良い品質のものが得られないとあって朝早くから大変な賑いである。日用品、身廻り品についてはサムセンタイ他の商店街がある。こゝラオスでは、値引きが可能なので、いつどこでも定価通りに買いと損をする。かけひきの要領があるので、むやみやたらに値切ってもダメである。

(2) 今後赴任される専門家に対するアドバイス等

ヴィエンチャンは首都とはいっても市内は小さな街で、どこへ行くにも自動車でも20分もあれば行ける狭いところである。そこで専門家同士もすべてが近所づき合いの関係が出来上がる。この点便利なこととはわからないこと、困ったことが起きた際は、所謂近所の人々の衆知を集めることができるという点である。従ってより深い人づき合いが要求されてくるのは当然のことであろう。娯楽設備も少ないところなので、対話の機会が自然ふえてくる。日頃のチームワークの構成が外国生活をするものにとって不可欠となってくる。日本大使館、商社その他の企業の関係者ともフランクな交流が保たれることが望まれる。

前述のようにラオス語の修得は不可欠である。英語で大体の意思疎通は可能であるが、やはり現場においては現地語の必要性は過分にある。特に技術協力と現地語の修得は不可分の関係にあると言えよう。

II 同国に対する我国の技術協力実績

(昭和49年3月31日現在)

区分 形態	農	建	鉱	運	通	厚	行	そ	累
	水 産	設	工 業	輸	信	生	政	の 他	計 (人)
研修員受入	70	35	23	15	14	13	71	25	266
専門家派遣	33	110	12		5	23	1	52	236
日本青年 海外協力隊	93	42	21		32	3		36	227
農 業 協 力	名 称	内 容				期 間	人		
	タゴン地区農業 開発	ナムグム河右岸に840ha の農地を造成するとともに 100haのパイロットファ ームを設け集中的開発を行ない 周辺地域にかんがいによる 農業の近代化を図る計画に対 する協力				44~49			
		機 材 供 与				43. 1	10		
		実 施 調 査				43. 11 ~ 44. 12			
		実 施 設 計 調 査				44. 6 ~ 44. 7	7		
		パイロットファーム 実 施 調 査				44. 11			
		巡 回 指 導				46. 3 ~ 46. 4	2		
	専 門 家 派 遣				44	8			
開 発 調 査	名 称	調 査 内 容				期 間	団員数		
	上水道・橋梁架 設予備調査	ゴガム河への架橋およびヴィエ ンチャン市における上水施設 の建設を行なうための調査				32. 12 ~ 33. 1	4		
	鉱物資源開発調 査(第一、第二)	ルアン・プラバン、ナムリツ メケク、バクセ地区に賦存す る銅、金、銀、錫を中心とする 各鉱床の調査				41. 11 ~ 41. 12	6		

	名 称	調 査 内 容	期 間	団員数
開 発 調 査	ウエンチャン 空航建設計画調 査	現在ジェット旅客機の発着が 不可能な程小さな飛行場を拡 張し、国際ルートの基本にま で引き上げようとする調査	42. 2. 6 / 42. 2. 26	5
	東南アジア域内 電気通信網整備 計画調査 フィリピン、 インドネシア タイ、ベトナム、台湾	当該7カ国相互間の通信計画 基本構想樹立のための調査	42. 10 ~ 42. 11	6
	ウエンチャン 空航拡張計画実 施設計	滑走路延長調査に基づきその 詳細設計を行ない、国際工事 請負入札に附することのでき る設計図、工事仕様及び設計 報告書等を作成する。	43. 11 ~ 44. 2  44. 8	11  2
	ウエンチャン 空港第二拡張計 画実施設計調査	ウエンチャン空港の高速離脱 誘導路二本、それに付帯する 一部平行誘導路の新設および エプロンの拡張に関する実施 設計のための調査	46. 1 ~ 46. 3	13
	メコン河総合開 発調査	ナムグムダム実施計画調査 第50回メコン委員会出席	40. 2 ~ 42. 12 46. 1 ~ 46. 2	2 3
機 材 供 与	機 材 名	供 与 先 機 関	年 度	数 量
	レントゲン装置 救急車、他	ルアンプラバン等国立病院	39	1 式
	畜産試験所用機 材	畜産試験所	40	1 式
	耕耘機、トラク ター等農機具	農 業 省	41	1 式
	農業肥料	国連ウエンチャン農場	41	1 式
	窯業用機材	手工業振興センター	45	
養蚕関係機材	養蚕センター	46		

	機 材 名	供 与 先 機 関	年 度	数 量
機 材 供 与	産婦人科医療器具	サバナケット病院	4 1	1 式
	歯科材料	ルアンブラバン病院	4 2	1 式
	X線撮影装置心電計	タゴン診療所	4 3	
	医療品、機材等	タゴン診療所	4 4	
	発電機、歯科用器機等	ルアンブラバン病院	4 4	
	歯科器材等	ルアンブラバン病院	4 5	
	水道関係機材	タゴン診療所	4 5	
	医療機材	"	4 5	
	巡回診療車等	"	4 6	
	医薬品類	"	4 6	
診療車等	ルアンブラバン病院	4 6		

Ⅱ 大使館等連絡先

大 使 館

住 所 Ambassade du Japon,  
Route de That Luang,  
Vientiane,  
Royaume du Laos.

電 話 3 3 4 3、2 5 8 4、2 3 1 6

電 略 TAISHI VIENTIANE

